

当院における訪問診療への携わり

検査技師のタスクシフト・シェアとは

◎齊藤 実佳子¹⁾、菅沼 早礼¹⁾、萩原 正寿¹⁾
静岡市立清水病院¹⁾

【はじめに】 近年医師・看護師の業務をタスクシフト・シェアしていく取り組みが推進されている。これに伴い検査技師が実施可能な業務も拡大されたが、通常業務として行うためには運用変更等調整が必要となり容易に参画できない業務もある。当院では病棟再編成や看護師不足により検査技術科としての業務支援を検討し、CRC・健診業務・肝炎コーディネーター・術中モニタリング・訪問診療への同行を開始している。今回はその中でも検査技師として訪問診療への携わりに関して報告する。

【経緯】 2023年より総合診療科医師による訪問診療を実施することとなり、同行者として看護師が検討されたが近年の看護師不足により人員を割くことが難しく、検査技師が同行することとなった。

【業務】 現在は毎週火曜日の午後が訪問診療日となっているが、場合によっては他の曜日に予約が入ることもあり3名の検査技師が交代で業務を行っている。基本的にバイタルは医師が実施し、検査技師は主に記録作成・採血・患者や家族対応の補助を行う。

【まとめ】 看護師と異なり日常的に医師の補助を行っていないため経験が必要であること、また薬剤名がわからない場合があり薬剤に関する知識も得る必要があると感じた。しかし、超高齢化社会となる日本にとって訪問診療を必要としている患者・家族は増加すると考えられ、検査技師として同行することが医師・看護師支援並びに患者支援となるのではないかと考えた。更にPOCTの精度管理は検査技師の役割であり、これにより正しいデータを提供することができる。一方で腹部エコー等専門性の高い業務に対してどのように取り組むのかが課題である。検査技師は他職種と比較すると患者との関わりが少ない為、患者と対面する業務に苦手意識があることが、タスクシフトの重要性を理解していても医療の現場へ踏み出せない原因の一つではないかと感じている。患者や家族との関わりを持ち直接対話することでしか学べないことも多く、仕事へのやりがいを伝える事が更なる業務拡大につながればと考える。

連絡先：静岡市立清水病院 検査技術科 054-336-1111